

ヤマハ株式会社
2014年3月期
第2四半期決算説明会

2013年11月1日



決算概要

- 対前年同期増収増益
対前回予想(7/31発表)でも増収増益
- 楽器、音響機器の販売は、現地通貨ベースでは1Q実績から回復基調だが
上期実績は対前年に届かず
- 電子部品事業が堅調に推移
- 営業利益は、為替影響が大きく、対前年同期、前回予想共に増益となり
137億円の実績

* 2014年3月期の開示セグメント変更に伴い、2013年3月期の数値を
新セグメントベースに組み替えて表示しております。

2014/3期 上期業績概要



(億円)

	13/3 上期	14/3 上期	前年同期比	前回予想	前回予想比
売上高	1,768	1,977	+11.8%	1,965	+0.6%
営業利益 (営業利益率)	68 (3.9%)	137 (6.9%)	+100.7%	115 (5.9%)	+18.9%
経常利益 (経常利益率)	61 (3.5%)	135 (6.8%)	+120.6%	110 (5.6%)	+22.5%
当期利益 (当期利益率)	33 (1.9%)	125 (6.3%)	+273.4%	100 (5.1%)	+25.1%

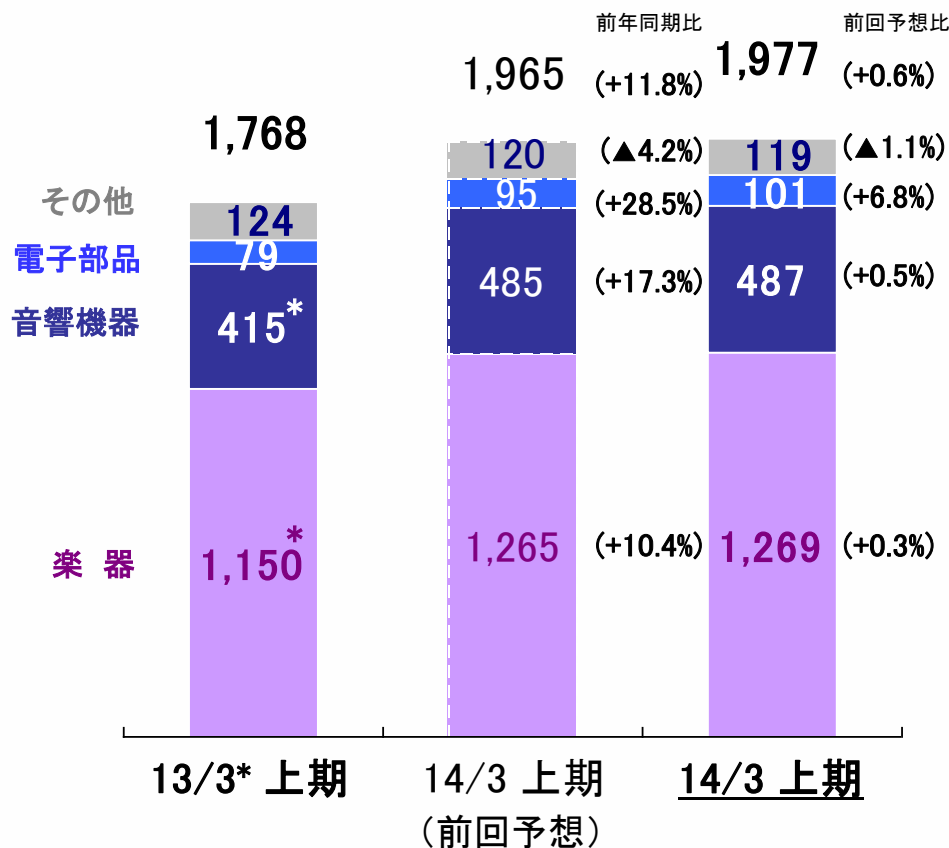
為替レート (円)

売上高	US\$	79	99	97
	EUR	101	130	127
利益	US\$	80	98	96
	EUR	105	125	123

2014/3期 上期事業別業績

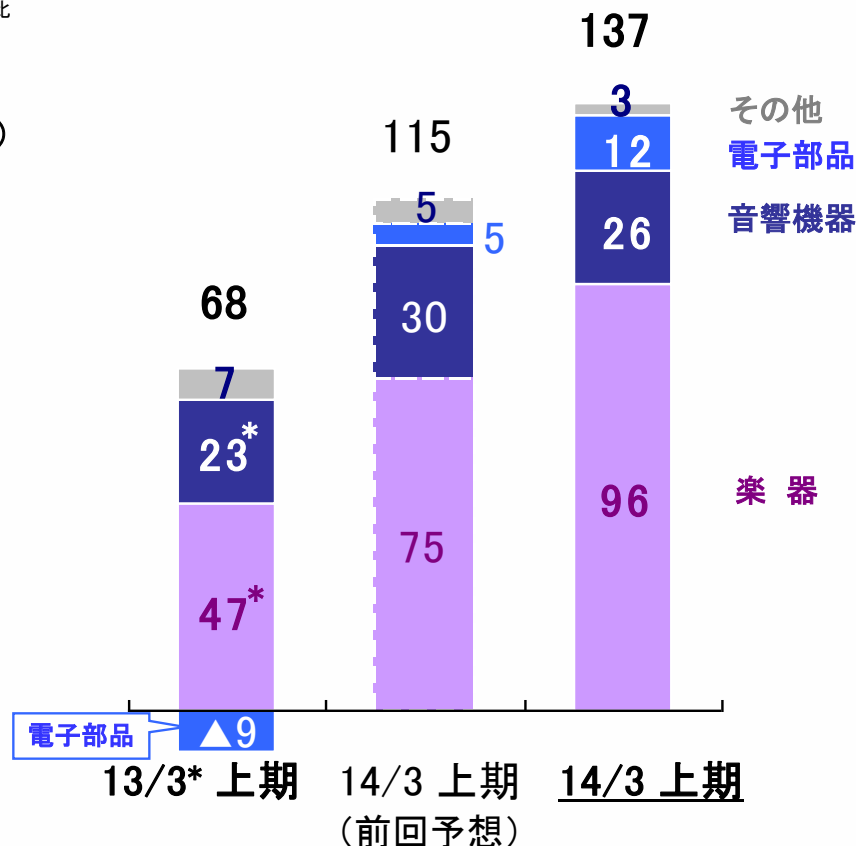


売上高



営業利益

(億円)



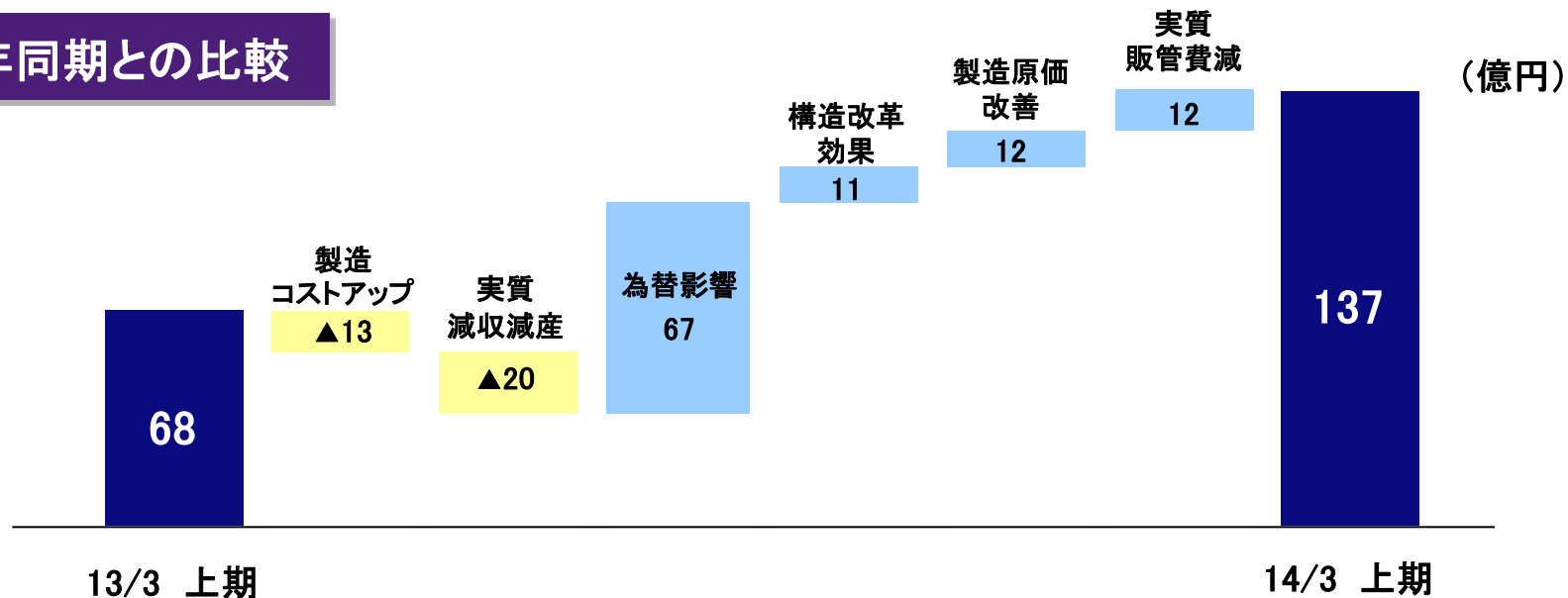
為替影響額 (億円)	
前年同期比較	+235 楽器 +154 音響機器 +75 電子部品 +6
前回予想比較	+20 楽器 +14 音響機器 +6 電子部品 +1

為替影響額 (億円)	
前年同期比較	+67 楽器 +46 音響機器 +17 電子部品 +4
前回予想比較	+5 楽器 +4 電子部品 +1

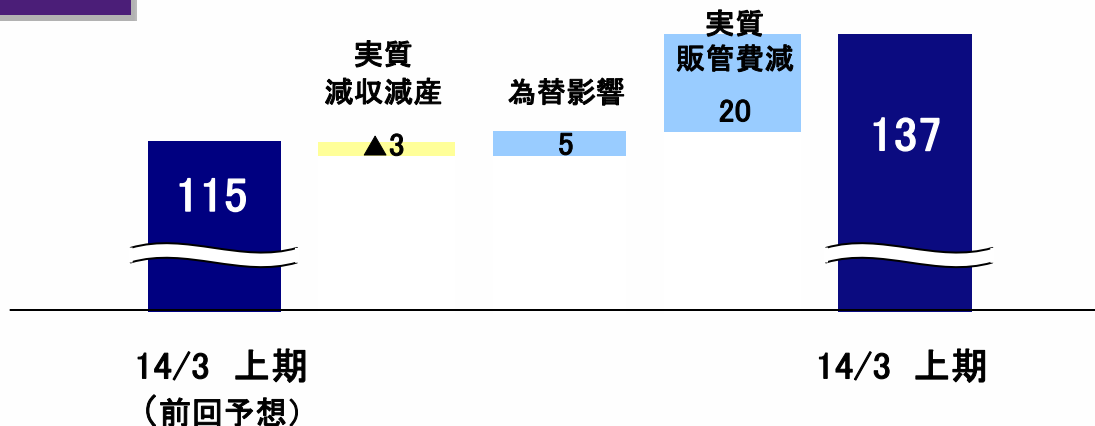
2014/3期 上期営業利益増減要因



前年同期との比較



前回予想との比較

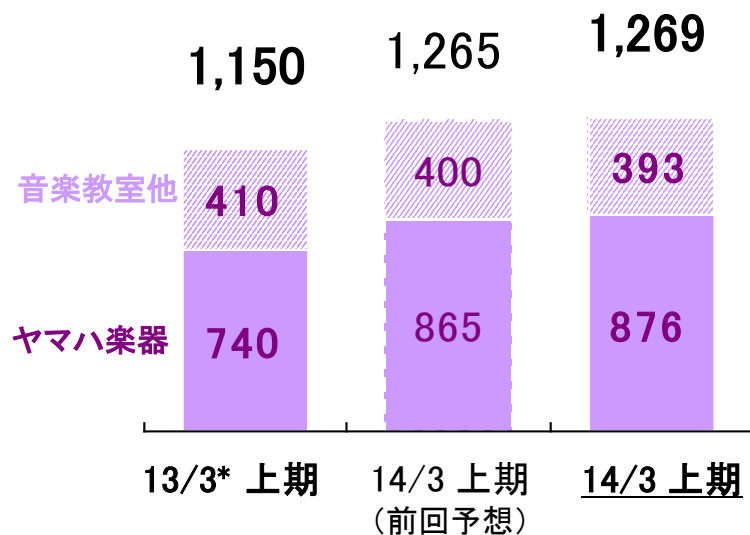


楽器事業 上期の状況

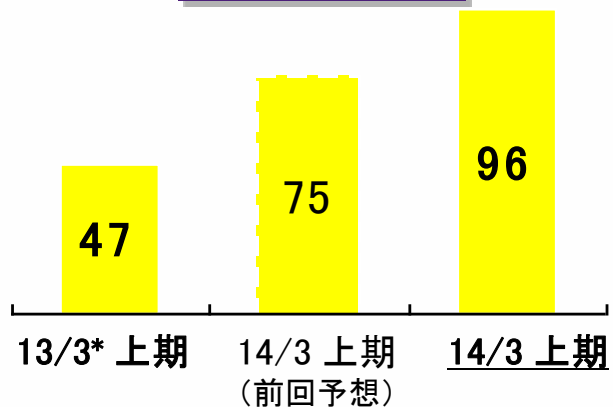


売上高

(億円)



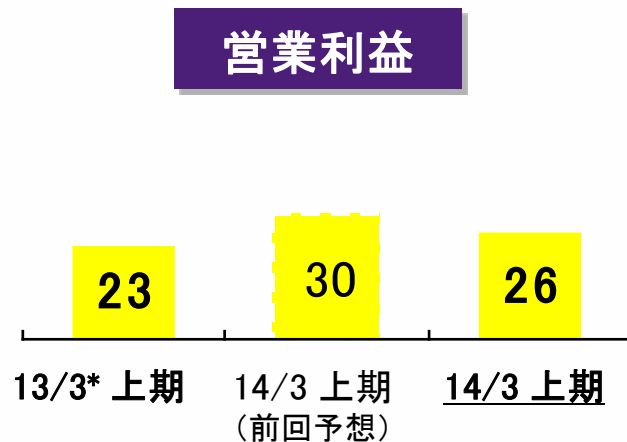
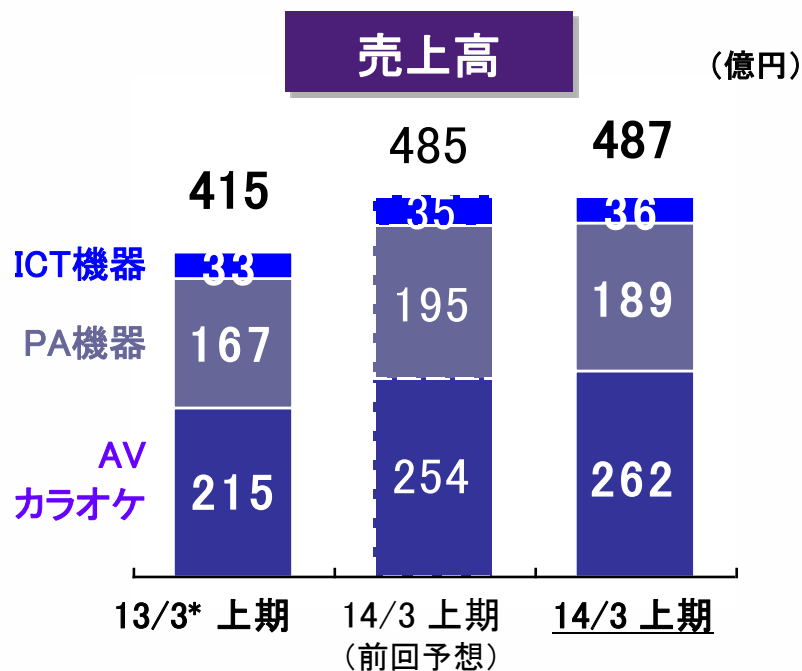
営業利益



上期の状況

- ・対前年同期、対前回予想共に増収
- ・上期売上高は為替影響+154億円を除外すると対前年同期実質減収
- ・中国市場は上期で実質増収に回復
- ・商品別ではデジタルピアノ、ギター、ドラムが実質増収も他商品は実質減収

音響機器事業 上期の状況

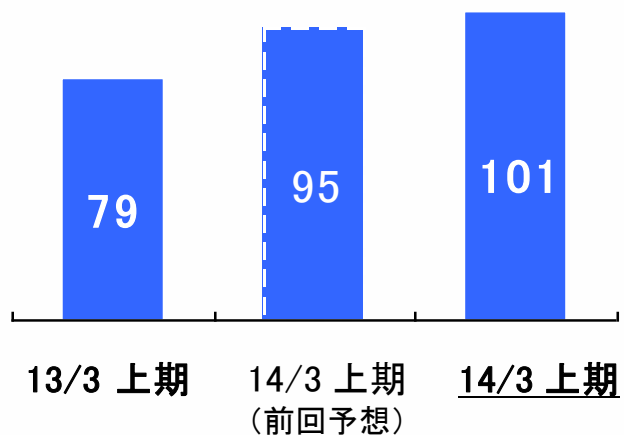


上期の状況

- ・対前年同期、対前回予想共に増収
- ・為替影響+75億円を除外すると対前年同期実質減収
- ・PA機器は設備用音響機器が苦戦
- ・営業利益は、為替影響+17億円はあったが販売管理費増で対前年同期実質減益

売上高

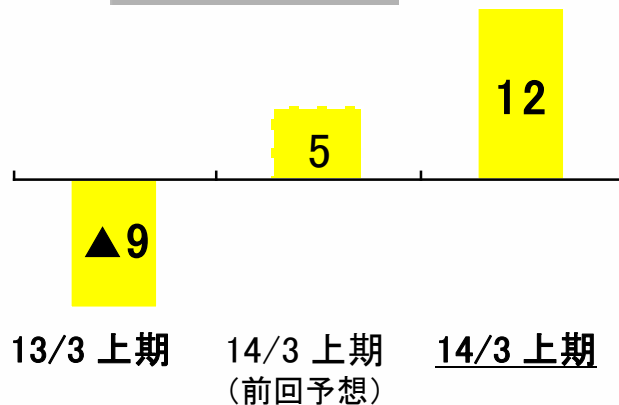
(億円)



上期の状況

- ・対前年同期、対前回予想共に増収
- ・地磁気センサー、コーデック等が堅調に推移
- ・先期実施の事業構造改革による固定費削減及び増収により2Qも黒字継続

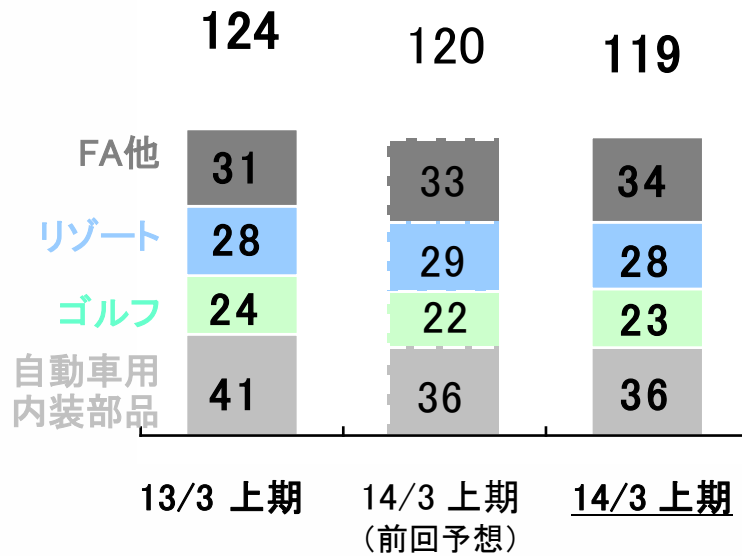
営業損益



その他の事業 上期の状況

売上高

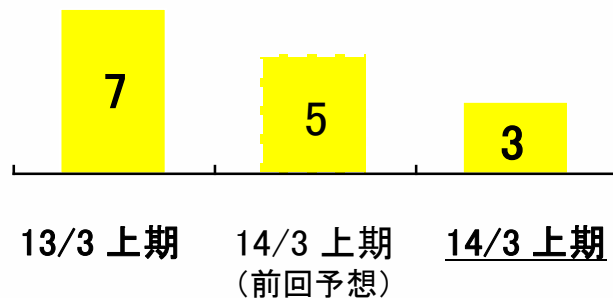
(億円)



上期の状況

- ・対前年同期、減収減益
- ・自動車用内装部品・FA機器が対前年同期減収
- ・ゴルフは海外市場伸長も国内振るわず対前年同期減収

営業利益



下期の見通し

- 楽器販売は力強さに欠けるものの前年同期比回復基調
- 北米、欧州は緩やかに回復、中国、その他市場も回復を想定
- 電子部品は上期堅調も下期不透明感あり
- インドネシアのギター工場ストライキ影響

通期の業績見込み

- 下期の為替前提をユーロ130円と見直し
- 売上高 4,080億円 営業利益 220億円と通期業績予想を修正
- 国内楽器小売販売会社の事業構造改革費用に特別損失7.5億円を計上

2014/3期 通期業績予想



(億円)

	13/3			14/3予想			前期比	前回 予想	前回 予想比
	上期	下期	通期	上期	下期	通期			
売上高	1,768	1,901	3,669	1,977	2,103	4,080	+11.2%	4,080	—
営業利益 (営業利益率)	68 (3.9%)	24 (1.3%)	92 (2.5%)	137 (6.9%)	83 (4.0%)	220 (5.4%)	+138.7%	200 (4.9%)	+10.0%
経常利益 (経常利益率)	61 (3.5%)	25 (1.3%)	86 (2.3%)	135 (6.8%)	70 (3.3%)	205 (5.0%)	+138.9%	185 (4.5%)	+10.8%
当期利益 (当期利益率)	33 (1.9%)	8 (0.4%)	41 (1.1%)	125 (6.3%)	55 (2.6%)	180 (4.4%)	+336.6%	165 (4.0%)	+9.1%

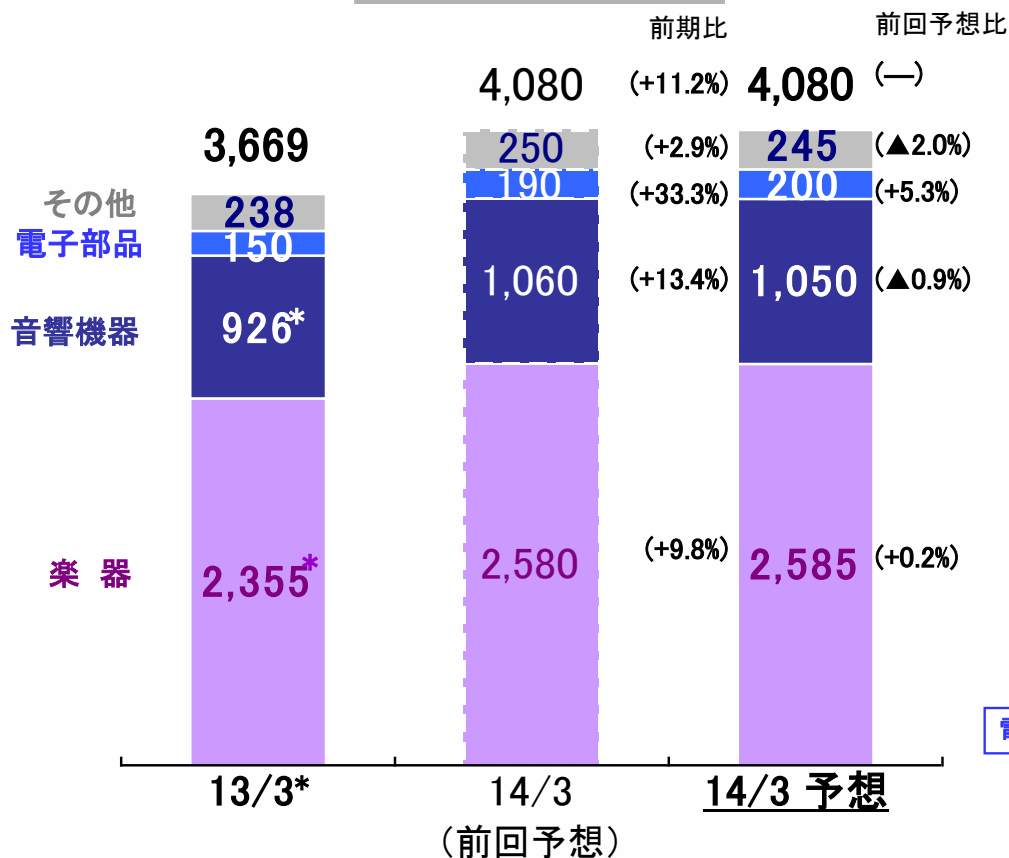
為替レート (円)

売上高	US\$	79	87	83	99	95	97	96
	EUR	101	113	107	130	130	130	126
利益	US\$	80	85	82	98	95	97	96
	EUR	105	101	103	125	130	127	124

2014/3期 通期事業別業績予想

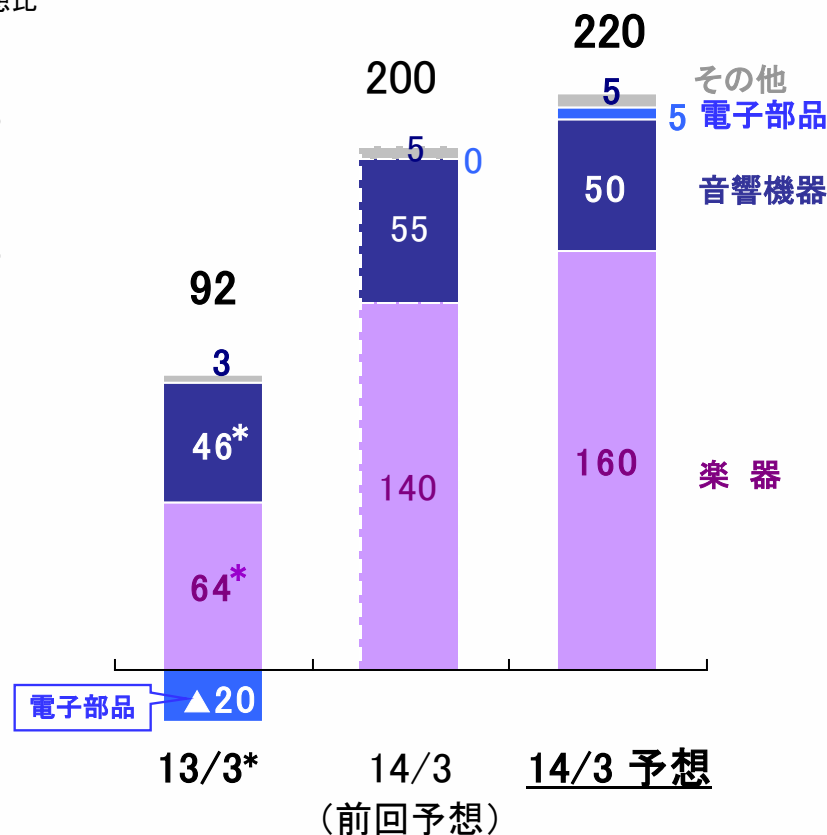


売上高



営業利益

(億円)



為替影響額 (億円)	
前期比較	+372 楽器 +239 音響機器 +125 電子部品 +9
前回予想比較	+39 楽器 +26 音響機器 +12 電子部品 +1

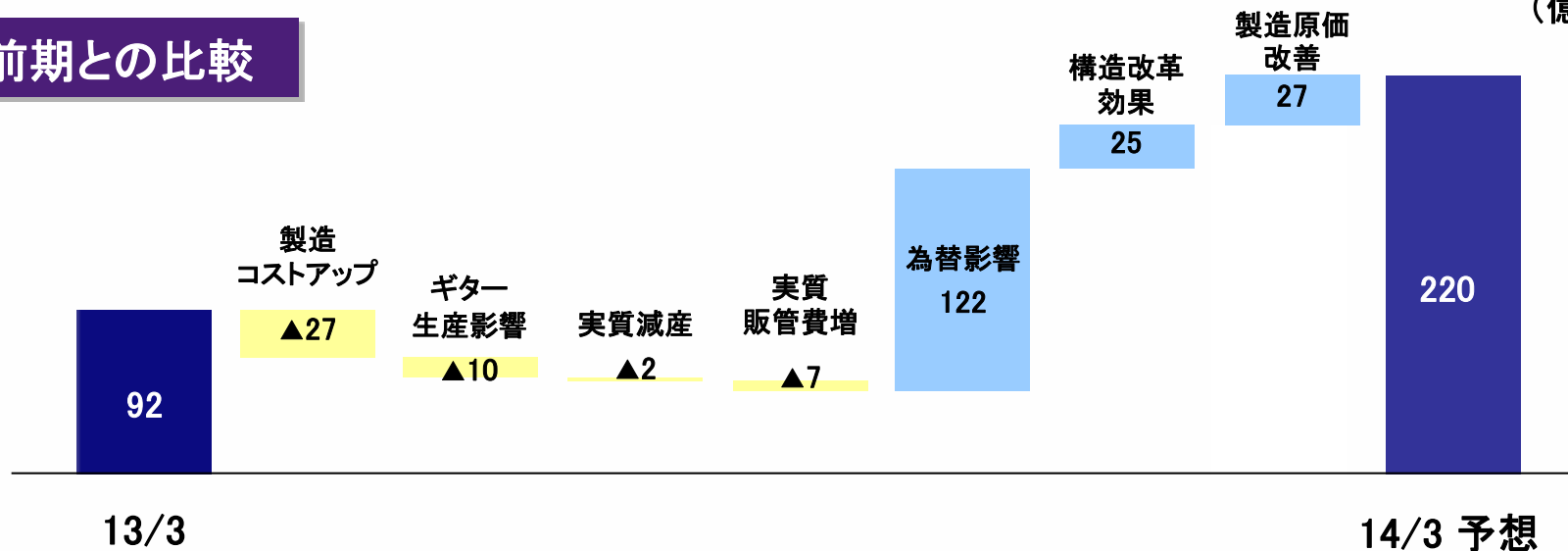
為替影響額 (億円)	
前期比較	+122 楽器 +85 音響機器 +31 電子部品 +6
前回予想比較	+8 楽器 +7 音響機器 +1 電子部品 +1

2014/3期 通期営業利益予想増減要因

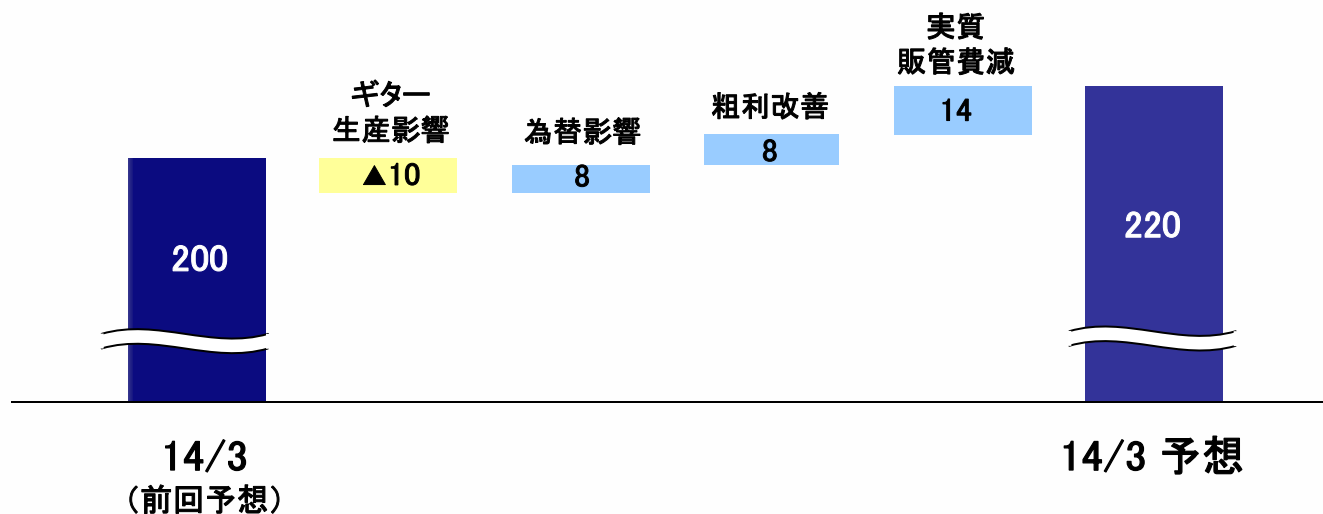


(億円)

前期との比較



前回予想との比較



楽器事業（予想）

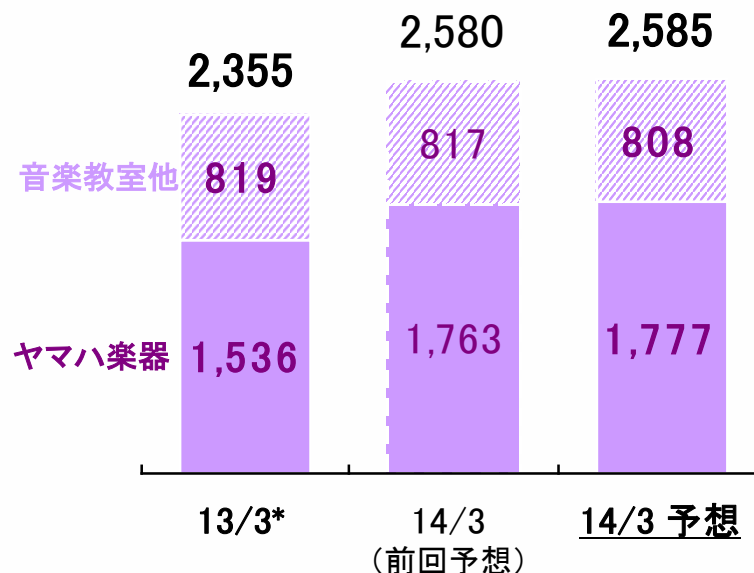


通期予想

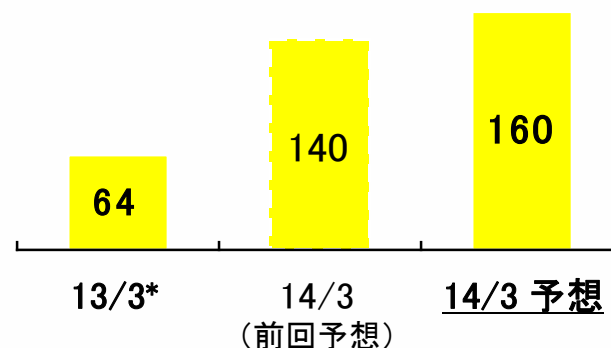
- ・為替見直し等により対前期、対前回予想共に増収増益を見込む
- ・中国は回復基調で成長
- ・インドネシアギター工場ストライキ影響を想定

売上高

(億円)



営業利益



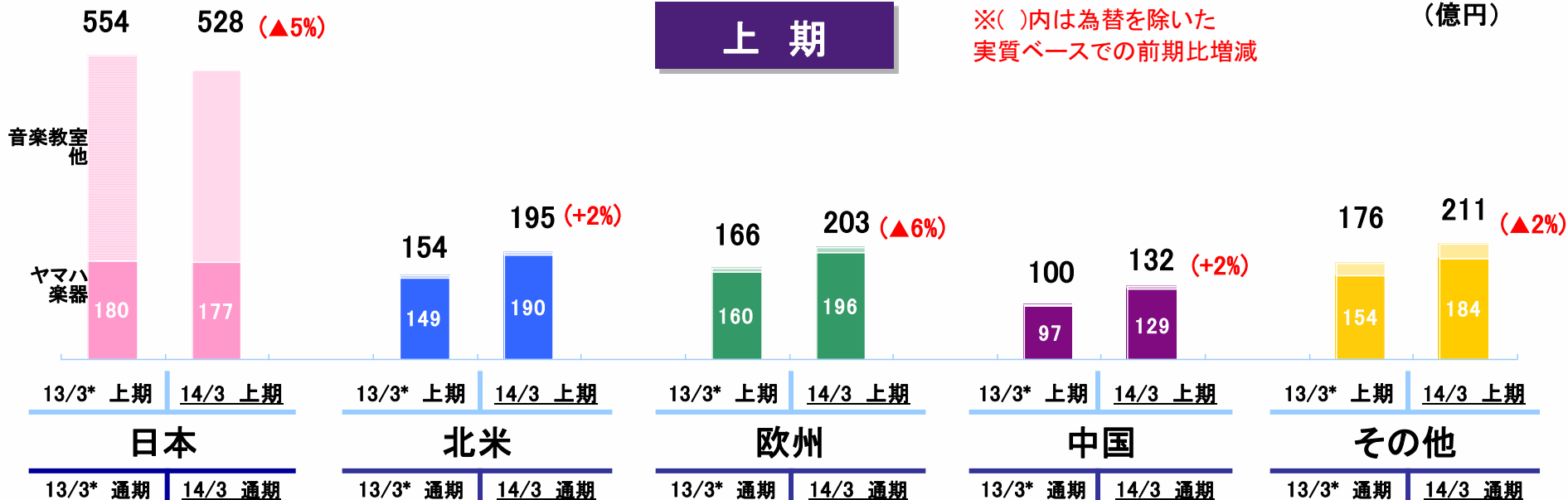
楽器事業(地域別の販売状況)



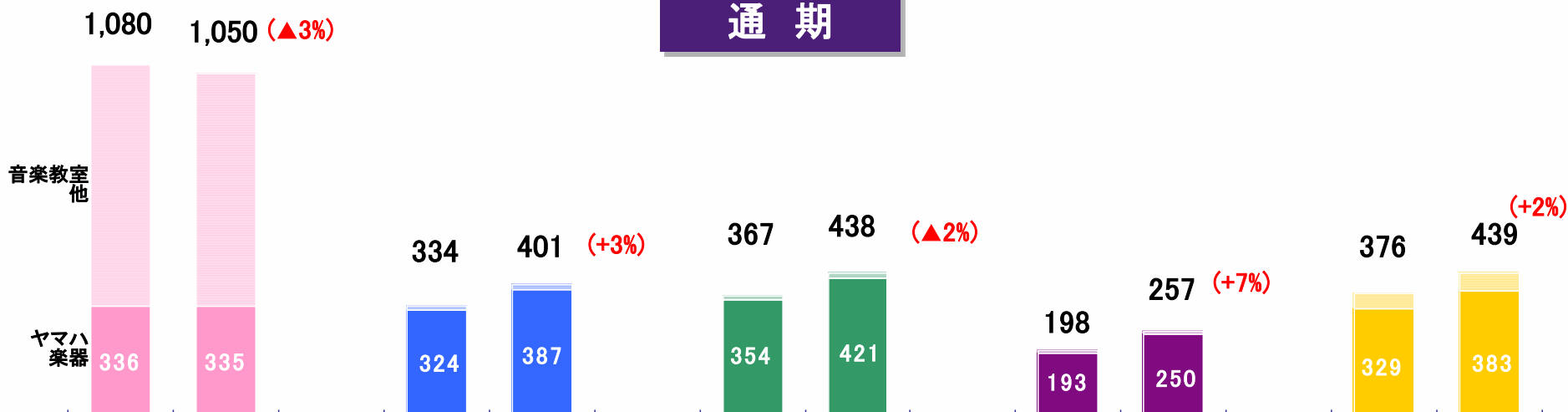
(億円)

※()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

上期



通期

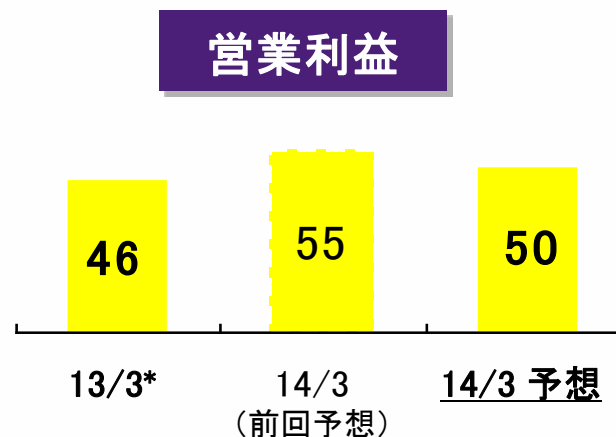
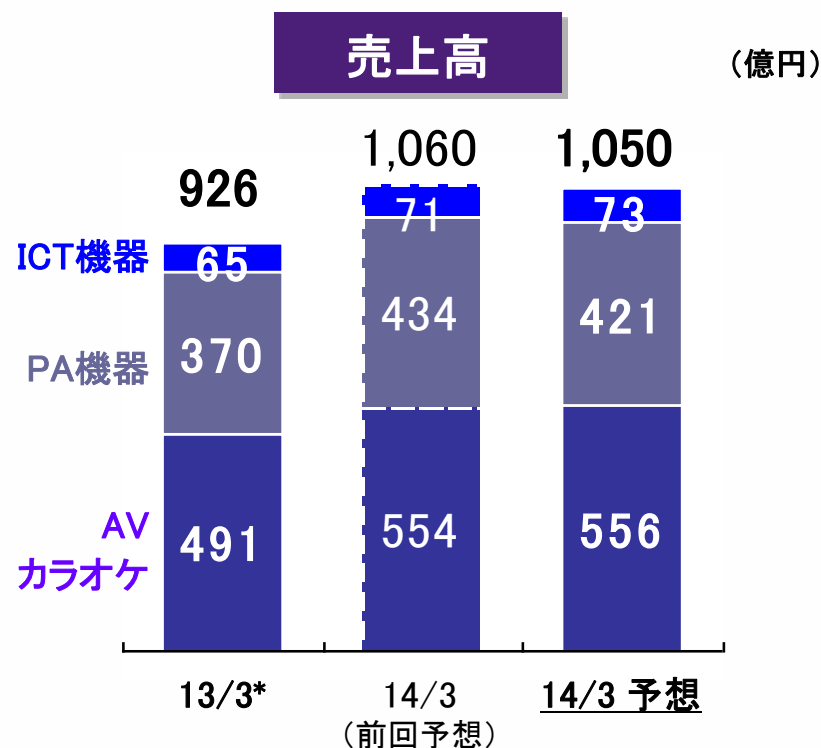


音響機器事業(予想)



通期予想

- ・前回予想で減収減益
- ・設備用音響機器の回復に注力
- ・ルーターは対前期増収、カラオケは減収
- ・営業利益は減収及び販売管理費の増加等により対前回予想で減益



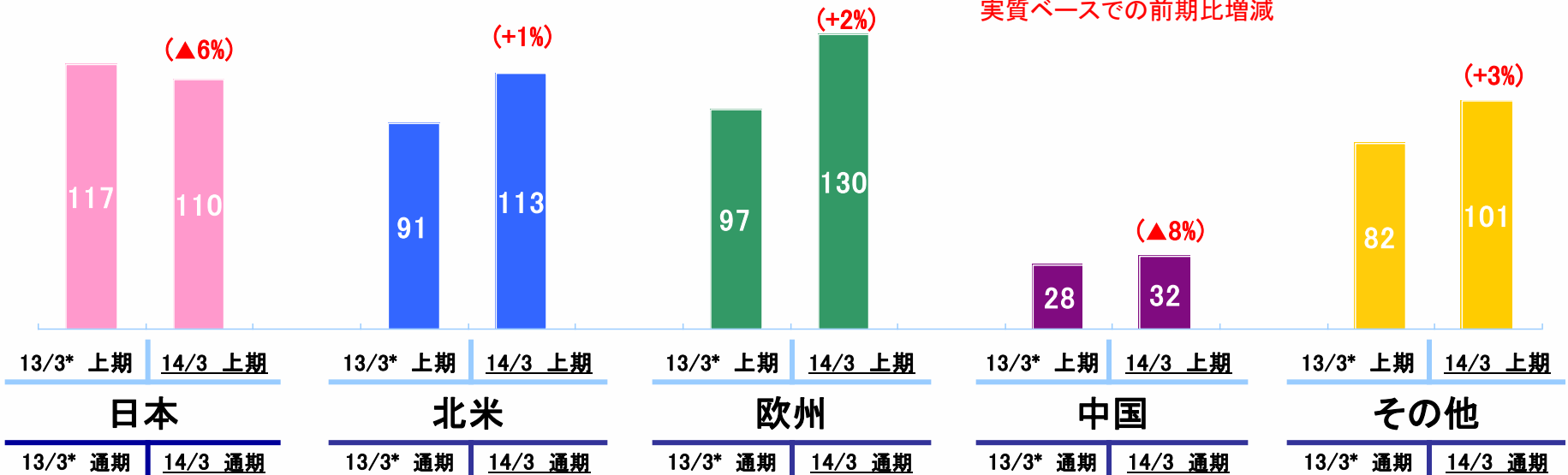
音響機器事業(地域別の販売状況)



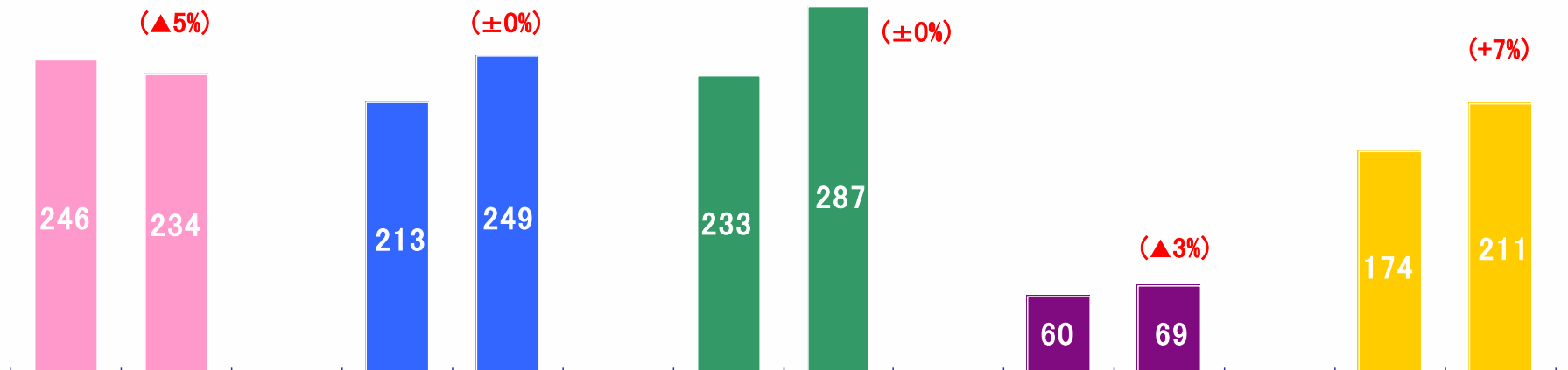
上期

※()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

(億円)



通期

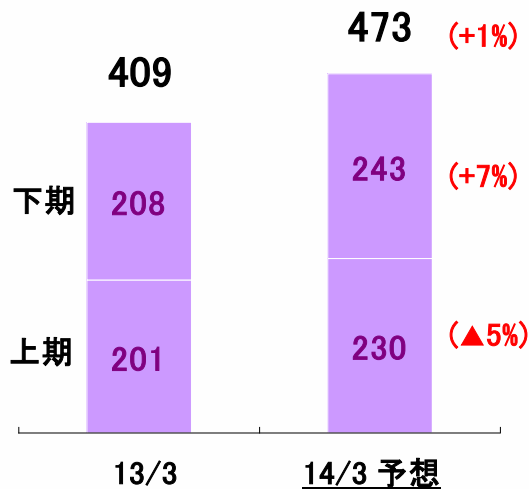


楽器・音響機器事業(主要商品別販売状況)

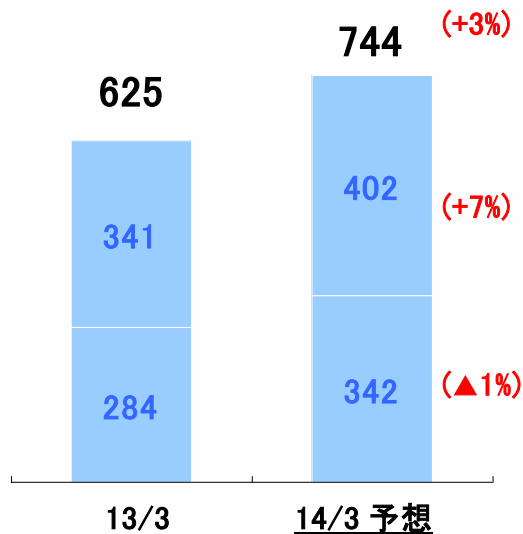


※()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減 (億円)

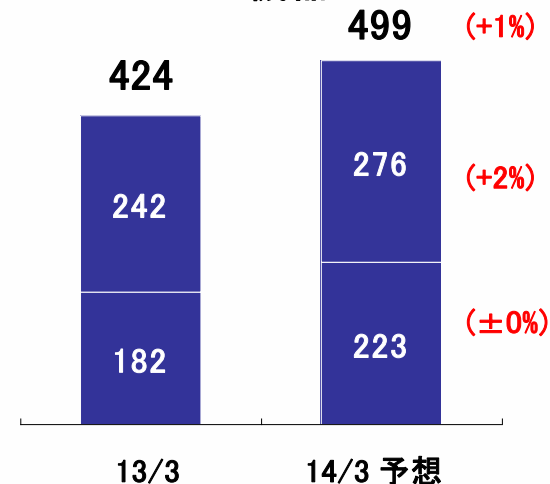
ピアノ



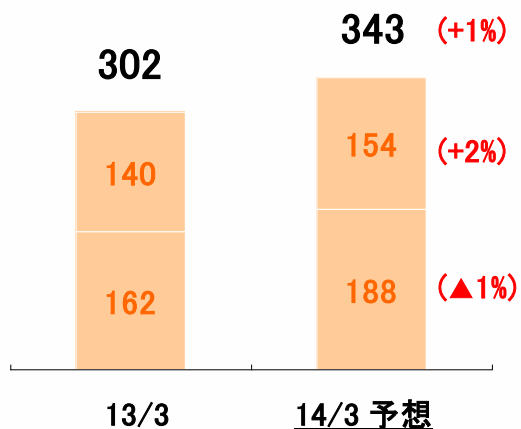
電子楽器



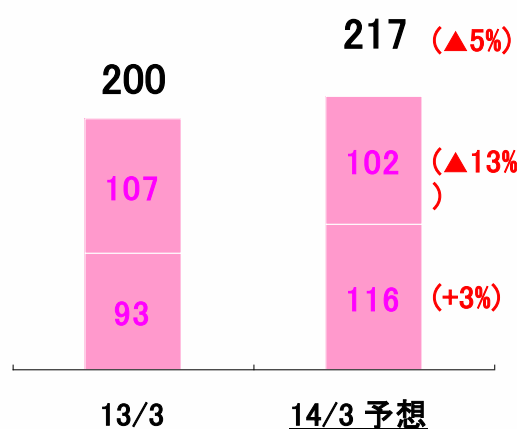
AV機器



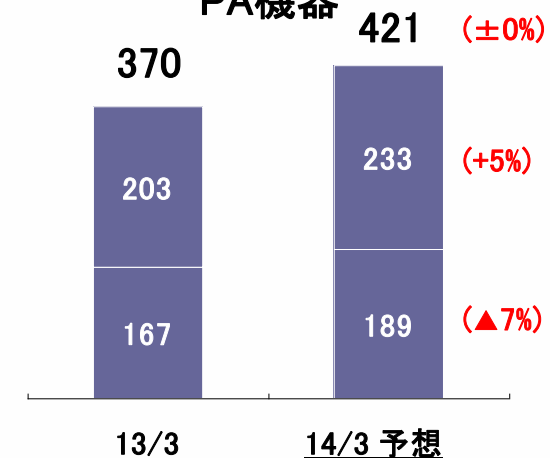
管楽器



弦打楽器

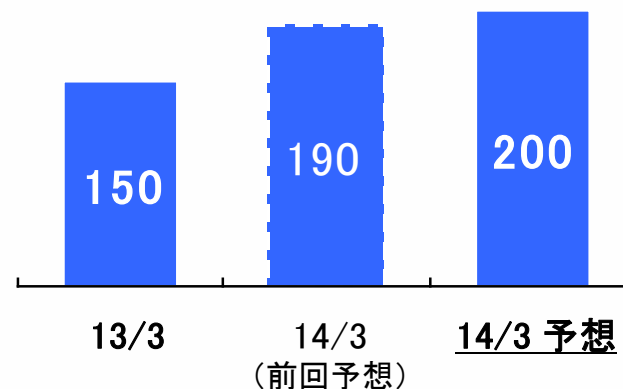


PA機器



売上高

（億円）



通期予想

- ・対前期増収、黒字化
- ・地磁気センサー、コーデック等がスマホ向け需要で対前期成長
- ・下期は研究開発費の後ろ倒し等により損益悪化を想定

営業損益



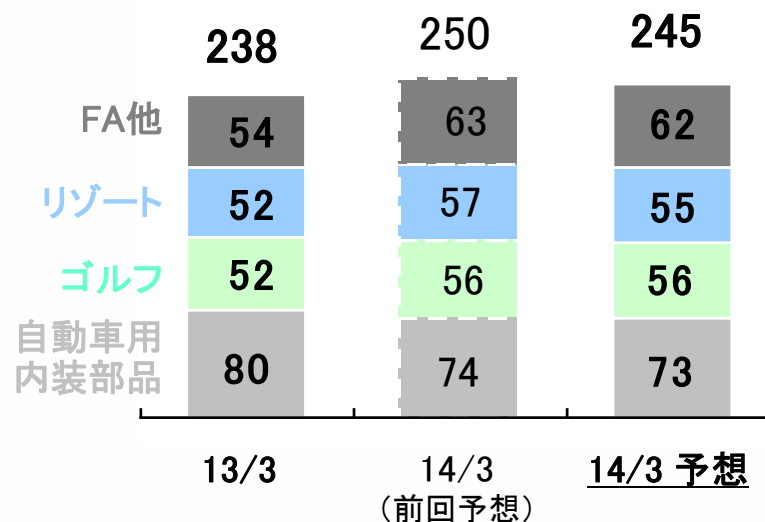
その他の事業（予想）

通期予想

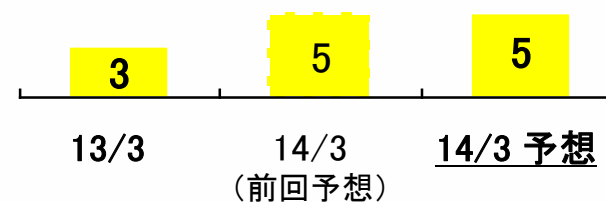
- ・対前回予想で若干の減収を想定
- ・自動車用内装部品、FA機器が対前回予想から減収想定
- ・ゴルフは新商品市場投入に注力

売上高

(億円)



営業利益



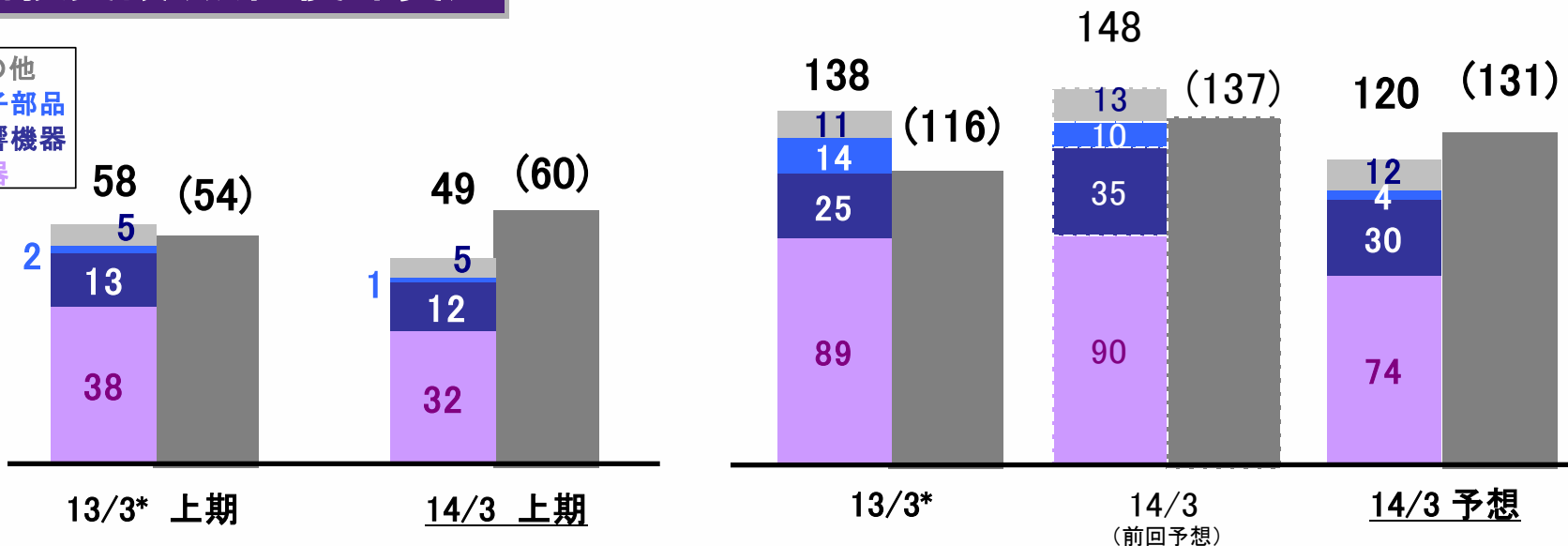
設備投資額・減価償却費/研究開発費



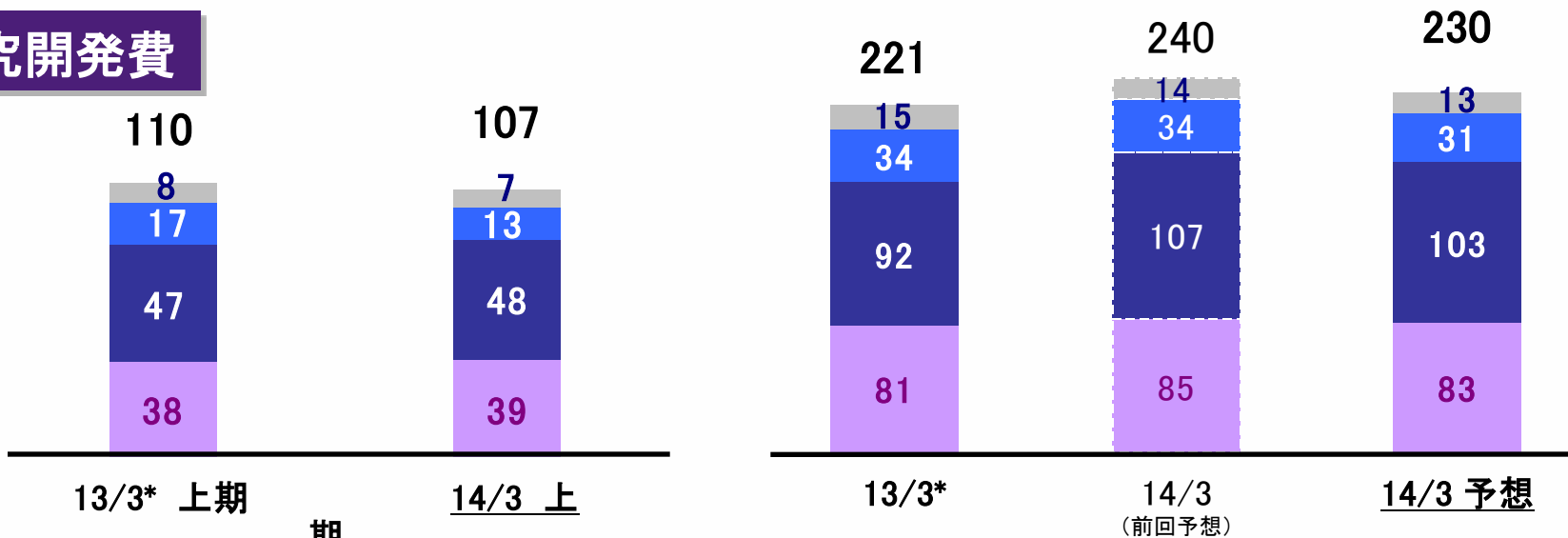
設備投資額(減価償却費)

(億円)

- その他
- 電子部品
- 音響機器
- 楽器

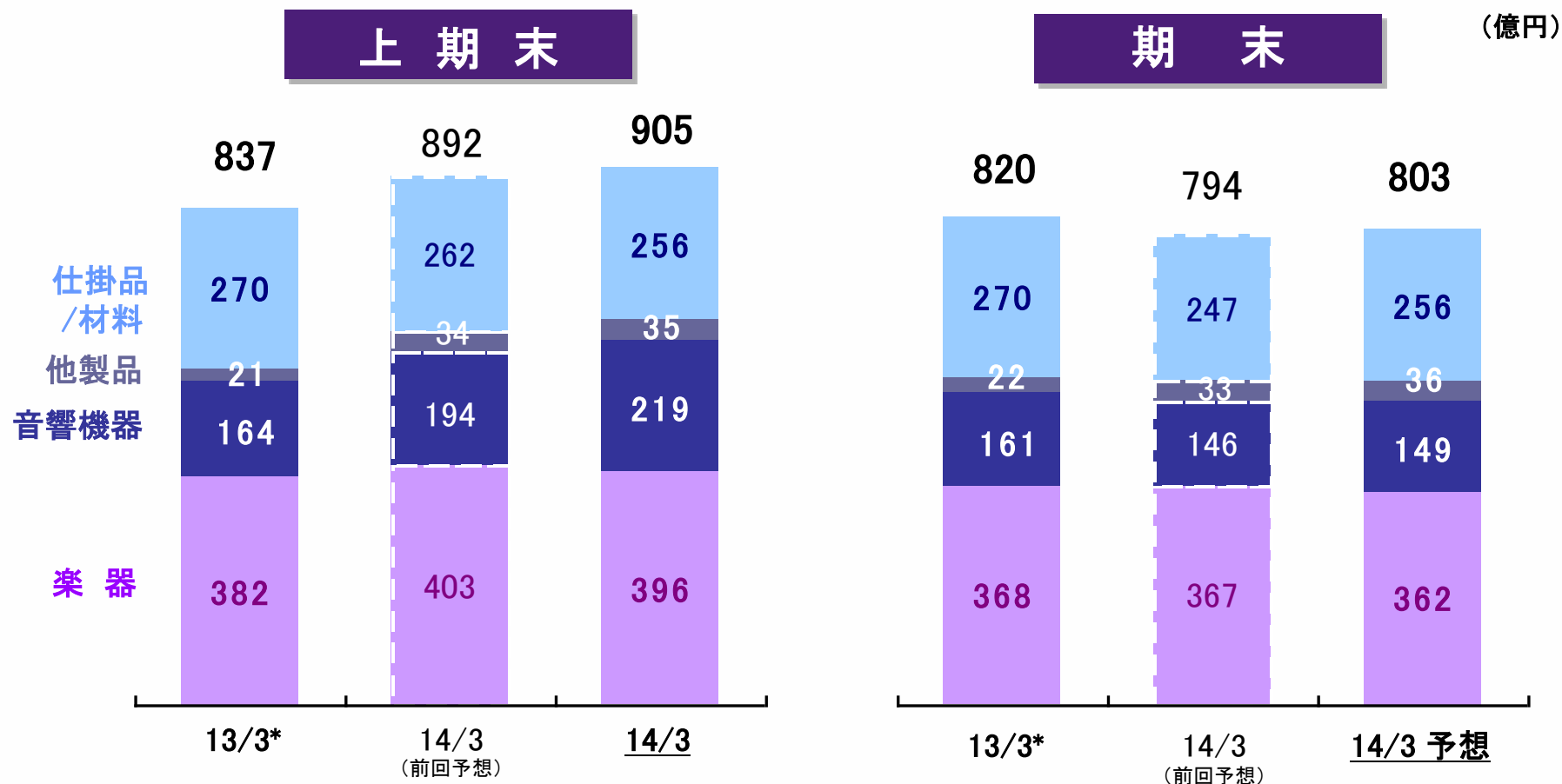


研究開発費



棚卸資産

- ▶ 上期末総在庫は対前年同期69億円の増加
(為替影響+142億円を除けば実質74億円の減少)
- ▶ 14/3末予想は803億円(為替影響 対前期 13億円 対前回予想 3億円)



貸借対照表



(億円)

	上期末			期末予想		
	12/9末	13/9末	増減	13/3末	14/3末	増減
現預金	500	627	127	514	641	127
売上債権	488	566	78	510	563	53
棚卸資産	837	905	69	820	803	▲17
他流動資産	96	131	35	135	126	▲9
固定資産	1,567	2,014	447	1,927	1,998	71
資産計	3,488	4,243	755	3,906	4,131	225
仕入債務	217	221	5	203	210	7
借入金	182	201	19	100	58	▲42
リゾート預託金	154	154	0	154	154	0
他負債	1,035	1,180	145	1,153	1,176	24
純資産計	1,900	2,486	586	2,296	2,533	237
負債純資産計	3,488	4,243	755	3,906	4,131	225

※年金未認識債務については1Q末にてオンバランス済み

付属資料

2014/3期 2Q業績概要



(億円)

	13/3 2Q	14/3 2Q	前年同期比	前回予想	前回予想比
売上高	868	1,007	+16.0%	995	+1.2%
営業利益 (営業利益率)	26 (2.9%)	75 (7.5%)	+193.4%	53 (5.3%)	+41.7%
経常利益 (経常利益率)	23 (2.7%)	72 (7.1%)	+210.3%	47 (4.7%)	+52.9%
当期利益 (当期利益率)	7 (0.8%)	67 (6.6%)	+831.5%	42 (4.2%)	+59.2%

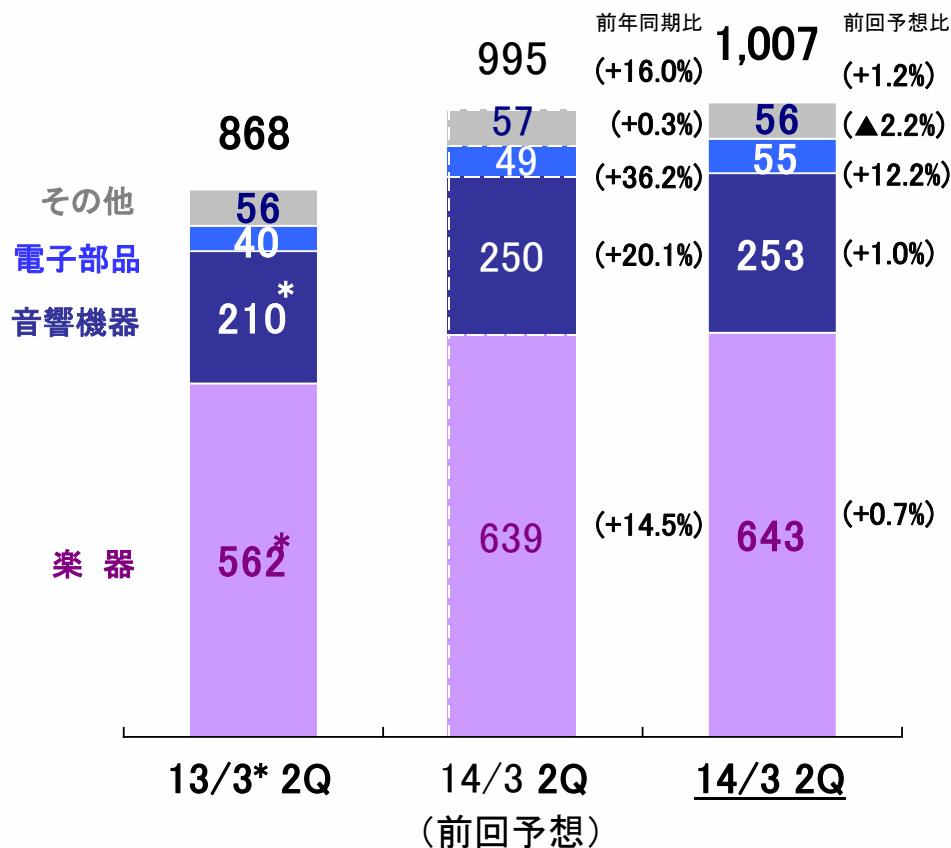
為替レート (円)

売上高	US\$	79	99	95
	EUR	98	131	125
利益	US\$	79	98	95
	EUR	103	129	125

2014/3期 2Q事業別業績

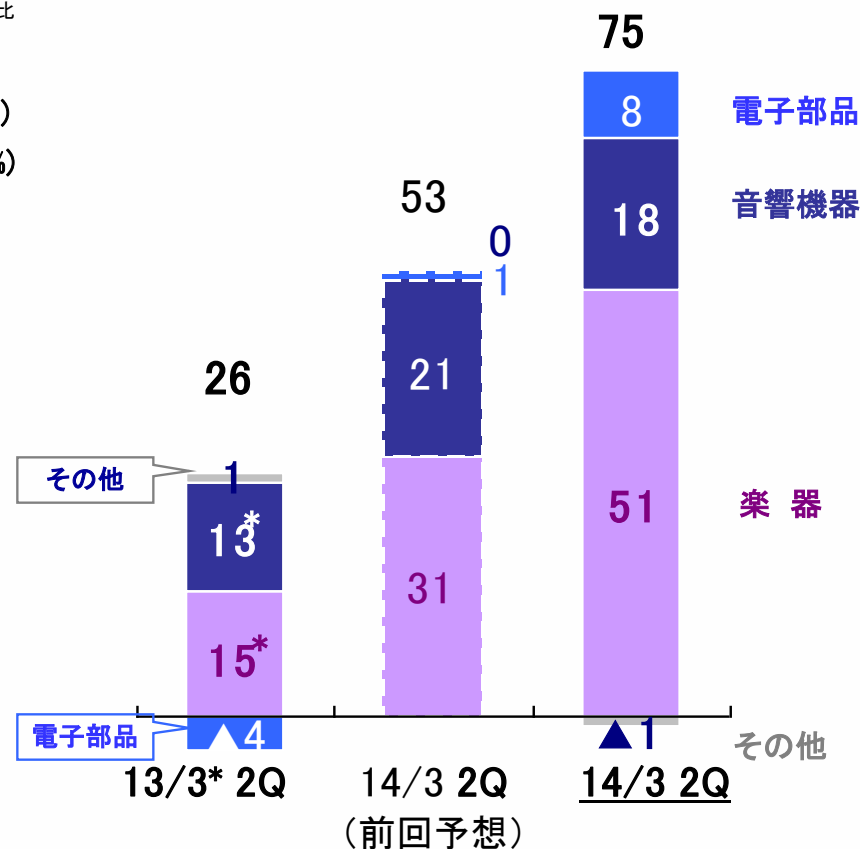


売上高



営業利益

(億円)



為替影響額 (億円)	
前年同期比較	+131 楽器 +88 音響機器 +40 電子部品 +3
前回予想比較	+20 楽器 +14 音響機器 +6 電子部品 +1

為替影響額 (億円)	
前年同期比較	+41 楽器 +27 音響機器 +12 電子部品 +3
前回予想比較	+5 楽器 +4 電子部品 +1

2014/3期 上期営業外損益、特別損益



(億円)	13/3 上期	14/3 上期前回予想	14/3 上期
営業外損益			
金融収支	5	7	9
その他	▲12	▲12	▲11
計	▲7	▲5	▲2
特別損益			
固定資産処分損益	3	▲1	0
その他	▲10	11	9
計	▲7	10	9
法人税他			
法人税等	21	33	34
法人税等調整額	▲2	▲13	▲17
少数株主利益	2	0	2
計	21	20	19

投資有価証券売却益
10

2014/3期 通期営業外損益、特別損益



(億円)	13/3 通期	14/3 通期前回予想	14/3 通期予想
営業外損益			
金融収支	11	11	14
その他	▲17	▲26	▲29
計	▲6	▲15	▲15
特別損益			
固定資産処分損益	16	▲3	3
その他	▲24	13	2
計	▲8	10	5
法人税他			
法人税等	37	41	43
法人税等調整額	▲2	▲11	▲15
少数株主利益	2	0	2
計	37	30	30

構造改革費用
▲31

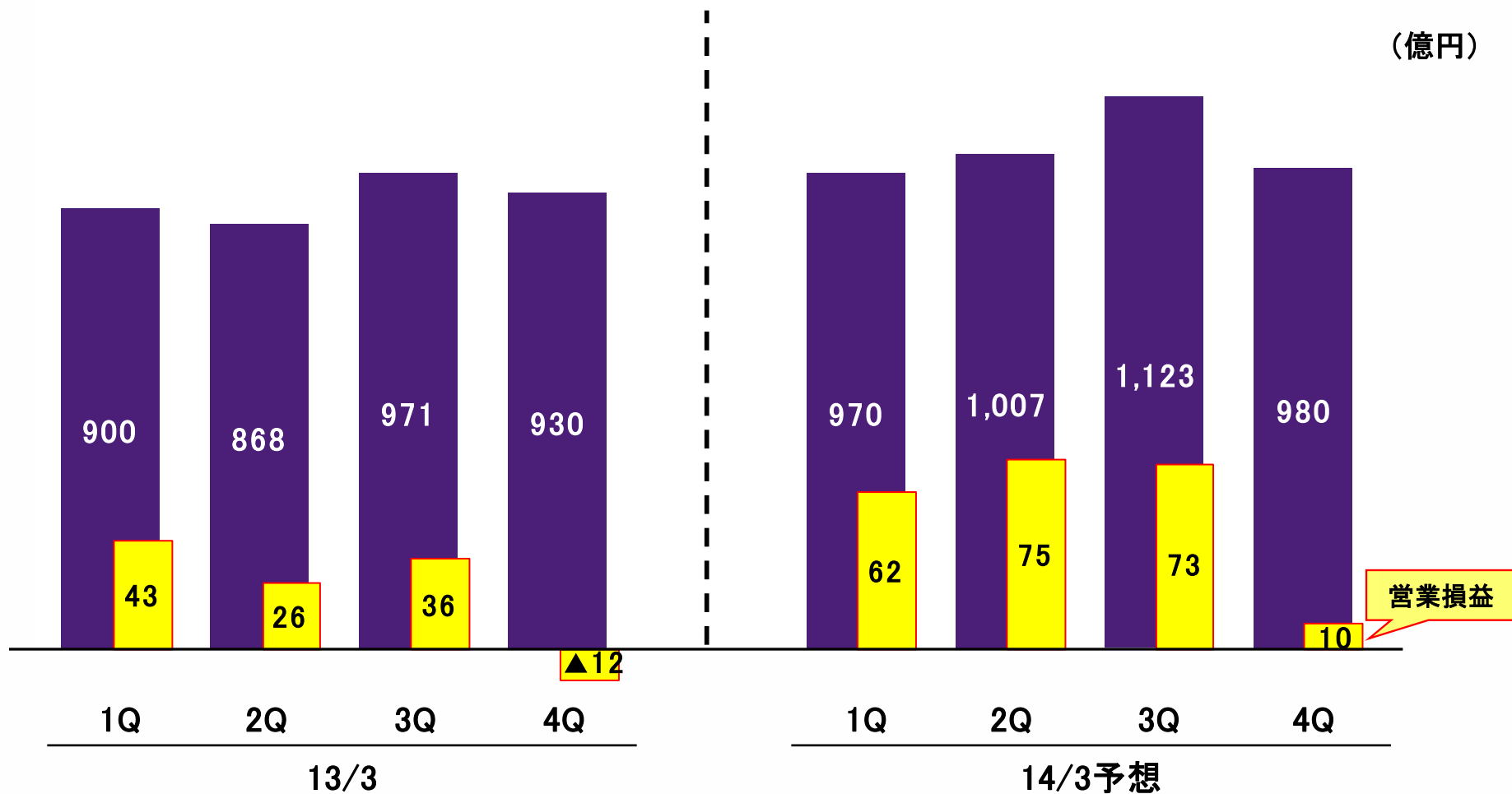
投資有価証券売却益
10
構造改革費用
▲8

楽器・音響機器事業(地域別の販売状況)



楽器・音響機器 地域別状況 ※対前年比較は為替影響除く	
日本	<p>夏より市況に僅かではあるが明るさが出てきたこともあり、2Qは全体として順調。ピアノ・エレクトーン等は1Qに引続き厳しいものの、アップライトピアノで高級価格帯が動き出した。ハイブリッドピアノは依然NU1が好調で注残状態。デジタルピアノも対前年二桁成長で好調。管楽器も新商品が次々に発売され対前年では復調。ギターもアコースティック中心に好調。しかしながら楽器の上期では依然、前年実績に未達の状況。設備用音響機器は今期納入物件が少なく苦戦、AVはTV回りの市場縮退に加え、シェアが高いSound Bar市場に競合他社が参入し苦戦、高級オーディオやAVレシーバーの健闘はあるものの上期で前年実績に届かず。</p>
北米	<p>北米全体では緩やかな景気回復継続で、上期はアメリカ・カナダ共に前年同期を上回った。商品別では、ピアノはグランドピアノ・ディスクレピアの販売堅調で前年実績をクリア。デジタルピアノは前年超えで堅調も、ポータブルキーボードは前年実績に届かず。管楽器は中高級価格帯や大型入札もあり好調に推移。ギターは大手楽器チェーン店でのアコースティックギター普及価格帯売上が牽引し二桁成長。一方、電子ドラムは苦戦。音楽制作機器は新商品堅調で前年超え。設備用音響機器は積極的な販促導入も物件少なく前年未達。AV商品は競合参入のSound Bar市場で苦戦もAVレシーバーが好調に推移し前年並みで推移。</p>
欧州	<p>楽器の上期では前年未達の状況。商品別では、デジタルピアノが低価格帯商品の小売が順調で前年増と好調維持も、ポータブルキーボードは市況厳しく苦戦続き前年割れ。管打楽器やギターも前年に届かない状況。音響機器全体では、AVは積極的な販促策に加え新商品導入が順調で全体を牽引、音響機器も堅調に推移し上期累計で前年同期を上回った。地域別では、ドイツ中心の成熟市場はほぼ前年並みに推移しているが、成長市場はトルコの前年の駆け込み需要の反動もあり前年割れ。</p>
中国	<p>全体市況は期初から回復基調、2Q実績は対前年107%で上期実績でも前年比プラスとなった。大都市市況は依然厳しさが残るものの、内陸部の景気が堅調で牽引している。商品別でもピアノは前年並みの水準まで回復してきており、電子鍵盤楽器も内陸部を中心に需要が旺盛。ギターも好調持続。一方管楽器は店頭在庫依然高く、出荷進まず。PAは設備市況低迷継続。AV小売市況も1Qから苦しい状況変わらず、音響機器全体で前年実績に届かず。</p>
その他の地域	<p>市場全体では楽器が2Qで前年比プラスに転じたが上期では前年に未達の状況。商品別ではデジタルピアノが依然好調。市場別には、中近東・アフリカでは前年の落ち込みから回復基調に転じている。ロシアでは順調に売上増、中南米はアルゼンチンが輸入規制にも関わらず健闘、前年超えも、主要国苦戦で、全体で前年割れ。楽器店再編のあったオセアニアは落ち着きを見せ回復基調、東南アジアでは中間層の成長著しいインドネシアが二桁成長を維持。</p>

四半期別売上高／営業利益(全体)

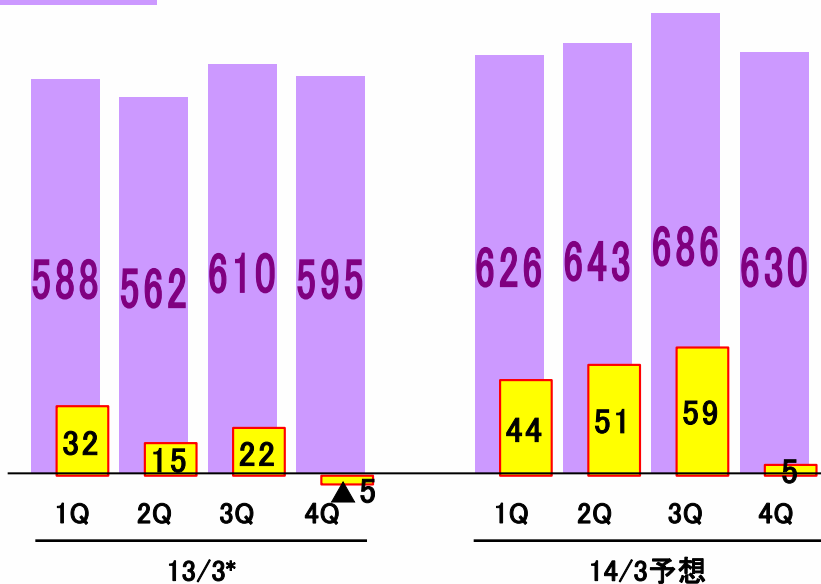


四半期別売上高／営業利益(セグメント別)

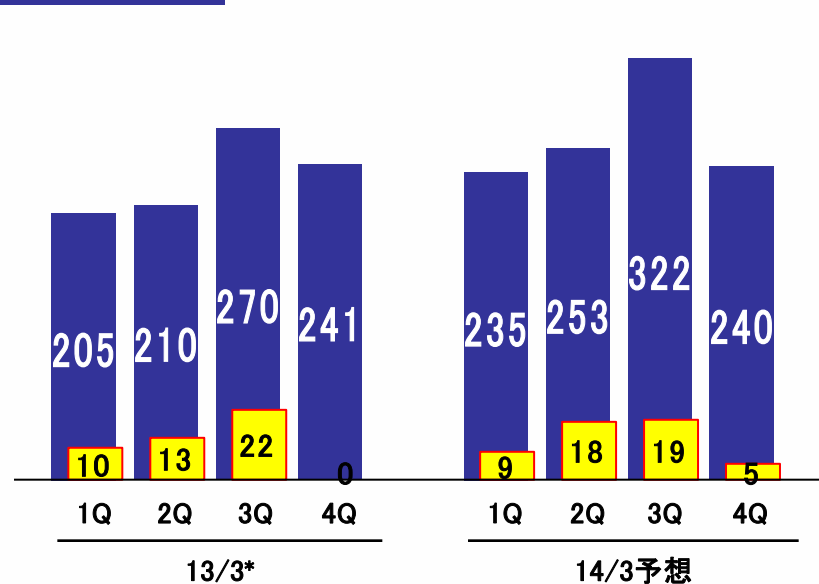


(億円)

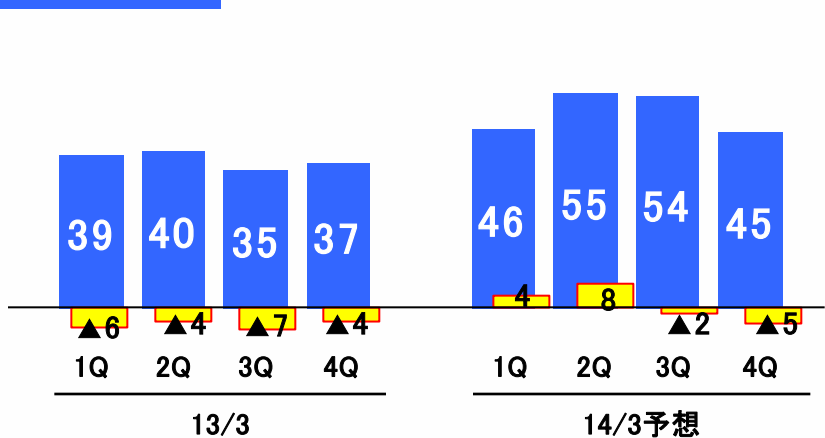
楽器



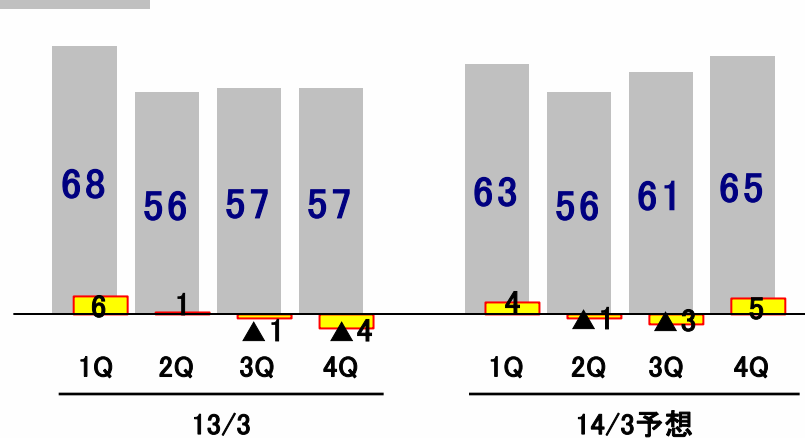
音響機器



電子部品



その他



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。